

ゴシックとロリータ両方の要素を足したファッションであるゴシックロリータが果たしてゴシックファッションに分類されるか、ロリータファッションに分類されるのかはしばしば愛好家の間で論点になる。それらの議論は両者に最も大きくスポットが当てられた2001,2年頃に盛隆を極め、決着が付かないままではあるが最近ではあまり語られない傾向にある。この項ではそれについて述べていく。

結論から言うと、本人の着こなし方や個人個人の考えによってこれらは異なる。

定義としては、ゴシックの一つという考え方が自然である。ゴシックの一つ派としての意見として「Manaが提唱した「エレガントゴシックロリータ」(ゴスロリの発祥とされる)はゴシックにロリータが取り入れられたもの(と言われている)から」というものがある。ゴスロリの発祥がエレガントゴシックロリータだと言う考えに則っていくと、これは最もな意見である。

しかし、反論としてMana以前にもゴシックロリータに分類される服装はあった為再起に存在していたロリータに分類される服装ではないかという主張もある。

服装的には、シルエットや小物は殆どロリータスタイルをベースにしたものであるため「ロリータにゴシックを加えたもの、ゴシック的要素のあるロリータ」と言った方が見た目には自然である。逆にゴシック服にロリータを取り入れたファッションをコーディネートすると、現存のゴシックロリータとは全く違うものが出来上がる筈である。(北出菜奈が提唱していた「[ゴスカワ](#)」などがそのイメージに近い)

ゴシック・ファッションはステレオタイプ化されやすい分、既存のファッションと迎合しやすいといった特徴がある。そのためロリータだけではなく、古くはフェティッシュやポジティブ・パンク、サイバーやロカビリーファッションと混交していった歴史がある。ゴシックが突出した分野によってその国のローカル性が浮かび上がってくることも多い。日本でゴシックとロリータが混交したのは、日本が「子供性」という分野においてもっとも突出しているからであると言われている。なお、アメリカでは心理学的分野に、ヨーロッパでは歴史性にゴスが突出している。そのため、本来のゴス(正統派)がどのジャンルなのかゴスに詳しい人でもわからなくなることがあるようだ。現在はゴシック小説を元にした吸血鬼のような格好が、正統派であると考えられている。

またゴシックの女性は少女趣味的で、ロリータの女性は暗黒や人形といった死を連想させるものへの興味があるとも言われている。精神的にはどちらも互いの要素を持っていると考えれば、その中間のジャンルが生まれるのは自然な事である。

結局、どちらでもないし、どちらでもあるのがゴシックロリータであるが、決してそれらは両極端ではないし、ファッションの文化において“極端から極端へ”“全く違うものの融合”は日本においては珍しくなく、むしろ基本的な流れである。ゴシックを極めていた人がしばらくして会ったら、ふりふりのロリータになっていたというケースも珍しくない。最近ではロリータとは正反対と言われてきた「セクシーなギャル」がこぞってロリータファッションや可愛く上品を標榜した姫系を始めたのもその一例である。

ゴシックとロリータは正反対に見えて、「同じもの」という見方もあり、ゴシックのファンはロリータをロリータのファンは、ゴシックを大抵同類と見ており、それに[パンク](#)や[デコラ](#)が含まれる場合もある。

ゴシックロリータはゴシックにもロリィタにも分類されない
既に一つの確立されたジャンルとの声も聞こえる。

着こなし自体もゴシック寄りか、ロリィタ寄りかに分かれるが、
それは、本人のその時の気分や好みで変わってくる。

ゴシックロリータはゴシックとロリィタ両方の外見的特徴を
備えているため、両方のを着こなせることが好ましい。
外見だけでなく、ゴシックの精神やファッションをゴシックロリータに
持ち込んでいて「ゴシック的な部分を意識している」方が上級者と見られている。
